【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名（ 伊勢工業高等学校）

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・ 地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	○基本的生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒(ひとづくり) ○産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり) ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒＞ 卒業後の進路希望は、就職が約8割、進学が約2割である。また、資格の取得や活発な部活動に期待している。 ＜保護者＞ 保護者の多くは、子どもの地元企業への就職を希望している。 ＜地域＞ 元気で素直な生徒の育成に期待をしており、特に地元企業からの期待が大きい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家庭＞ 日常の子どもの様子を知らせてほしい。 ＜中学校＞ 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。 ＜地域社会＞ 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。	＜家庭＞ 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。 ＜中学校＞ 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。 ＜地域社会＞ 本校の教育活動を理解し、積極的に協力して欲しい。
(3)前年度の学校関係者評価など	・生徒たち幅広く活動していることを知った。 ・令和6年度入試希望者数の減少は、(周囲の)中学生とその保護者が、工業高校は、普通科の学習内容が乏しく、大学に進学できない等と誤解しているように感じるため、正しく情報を伝えたほうがいい。 ・昨年度の反省報告時、今年度の計画報告時に評価委員から指摘のあった「国際性の取組」について取り組むことが望まれる。	
(4)現状と課題 教育活動	＜現状＞在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。 「ものづくり」企業で活躍する人材に必要な「工業の専門的な知識・技術」だけでなく世界範囲でのコミュニケーション能力を育成する場が求められる。 ＜課題＞企業が求める人材は、現在より一段高いところ(異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等)にあり、そのニーズに応えていく必要がある。また、生徒の安全と学びの継続を両立させるため、ICT教育の推進をすすめるとともに、変化の激しい社会や技術の急速な進歩に対応するために「課題解決力」や「学びに向かう力の育成」が必要である。	

	学校運営等	＜現状＞本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。 地域の小中学生に工業高校の教育活動や卒業後の社会貢献が理解されていない。 ＜課題＞活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えるための土日のイベント参加も多くなり、教職員も生徒たちも疲れてきている。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や生徒たちの過重な負担を減らしていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・「ものづくり」が好きで、学校での学習や地域での体験を基に自身が成長できる、生徒から望まれる学校づくりを行う。その「ものづくり」をとおして生徒が主体的に新しい資質・能力を学ぶ成長できる場を設ける。 ・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。 ・基本的生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直で、自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒を育成する。
学校運営等	・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。 ・第 1 希望の進路の獲得を目指し、基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。 ・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。 ・令和6年度に採択を受けた高等学校 DX 加速化推進事業(DXハイスクール)の取組で、「ものづくり」を基にした授業や取組で、DX人材の育成をすすめる。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 「ものづくり」をとおして自己実現したいと考えている生徒 ○ 伊勢志摩を中心とした地域で活躍し、地域のリーダーになりたいと考える生徒 ○ 自他の命を尊重し、学業、部活動や校外活動に取り組みたい生徒

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して学びに向かう力の育成とともに、基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図ります。 「高志」ある生徒が、卒業時に取得すべき資格等を明確にして、取得するための体制づくりに取り組み、成果を上げます。 (1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図り、実用に即した資格取得に重点をおいた教育実践に努めます。 (2)実習・課題研究や製図の取組の中で、技術技能の向上並びに「ものづくり」を通じた地域連携による課題解決力や表現能力に秀でた生徒の育成を進めます。	○DXハイスクール 令和6年度に文部科学省「高等学校DX加速化推進事業」(DX ハイスクール)の指定受けた。 設置している３学科で各専門性の知識・技術を修得し、これからの時代に必要とされるデジタル分野の技術を学ぶよう、教育計画を構築し、DX人材を育成していく。 【機械科】 (ｱ)ものづくりコンテスト溶接部門 三重大会 準優勝 【建築科】 (ｱ) ものづくりコンテスト木材加工部門	

	【活動指標】 （ｱ）ものづくり大会への参加 ・ ものづくり東海大会への出場 （ｲ）技能検定3級程度の技能練習、補習授業等の実施 （ｳ）建築設計競技会への参加 （ｴ）高校生工務店等による各種地域機関との連携 【成果指標】 ＊資格取得【別表】参照 （3）図書館の取組として、生徒の「生きる力」を育むため、読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めます。 【活動指標】 授業やHR活動等での図書館利用の推進 高校生工務店等の学校全体に関わる取組みへの支援 三重県学校図書館協議会および南勢地区高等学校図書館連絡協議会との連携 青少年読書感想文全国コンクール参加への支援 【成果指標】 生徒1人当たり貸出冊数5冊以上 高校生ビブリオバトルへの参加	東海大会 準優勝 （ｲ） 【建築研究部 設計競技】 第15回 高校生の建築甲子園 女性委員長特別賞 第71回 日本大学全国高等学校・建築設計競技 審査委員長特別賞 他11作品 受賞 （ｴ） 【高校生工務店】 度会特別支援学校 打楽器演奏支援システム製作 ふたみ農園 野菜プレートホルダーの製作 伊勢税務署 案内看板の製作 三重県立特別支援学校 寄宿舎の模型製作 等（年度末および適宜記載） 令和7年度から台南市 國立成功大學附屬博物館から指導いただく機会と國立台南第一高級中學と連携する。 （3） ・生徒1人当たり貸出冊数 2/21現在、3.5冊 ・南勢志摩地域高校生ビブリオバトルに2名が参加 ・課題研究等発表会開催 2/14 44名参加	
生徒指導	基本的生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直な生徒を育成します。（ひとづくり） （1）挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。 【活動指標】 （ｱ）全教員による登下校校門指導と校内巡視（毎日） （ｲ）駅前・町内巡視の実施 （ｳ）5分前精神の徹底（時間を守る・遅刻しない） （ｴ）授業に集中させるために入室許可証の発行実施 （ｵ）頭髪服装指導（通年）・身だしなみ講座（4月）の実施 【成果指標】 （ｱ）挨拶の励行100% （ｲ）遅刻の回数 昨年度比25%減 （2）日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的にモラル教育を実践します。 【成果指標】 （ｱ）欠席日数の減少 （ｲ）校則違反等による特別指導件数の減少（10件以下に減） （3）工業高校生としての連帯感を高め、いじめのない良好な人間関係の構築に努めます。 【活動指標】 （ｱ）新入生研修で「ソーシャルメディアの利用について」の講話を実施（4月） （ｲ）各科や各学年を通した指導 （ｳ）部活動での人間関係の育成 （ｴ）生徒個別面談（年間2回）や学校生活等に関するアンケート（各学期）の実施	・火水金に登校指導、校内巡視を実施した。 ・駅前や市内の巡視、校外活動時は生徒指導部で巡視した。 ・身だしなみ講座は1年生対象にオリエンテーションを利用して実施した。 ・入室許可証を取りに来る生徒は、昨年の基準から変更したため増減不明（数的に45.0%減） 【頭髪服装指導について】 1）2ケ月に1度実施した。 2）頭髪服装指導の延べ人数は R5:108→R6:43 （本年度2ケ月に1回としたため、延べ人数とする。） 【遅刻・入室】について （4月から12月） ・遅刻R5:450→R6:364（19.1%減） ・入室R5:504→R6:277（45.0%減） 体調不良（インフルエンザを含む）を訴える生徒は増加している。 ・6, 11, 2月を遅刻防止月間とし、遅刻回数に応じた指導をしている。 【特別指導について】 （4月から12月） ・特別指導17件であった。軽率な行動による指導が増えており、今後継続した指導が必要であり、集会等で生徒の規範意識を高めることが急務である。	

	【成果指標】 いじめの未然防止、早期の把握・解消 いじめの解消率100% （4）学校の様子を積極的に保護者に発信し、意思疎通を図り、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。（保護者や学校関係者以外の意見、HR活動や個別懇談の状況把握等の実施） 【活動指標】（ア）保護者会やPTA諸会合での説明 （イ）学年懇談会での話し合い （ウ）生徒個別面談を年2回実施、学校生活等に関するアンケートを各学期に実施 【成果指標】保護者が学校の様子をよく理解している。 保護者が学校に対し気軽に意見を言える。	【いじめについて】 ・いじめ防止強化月間では、宇治山田駅での啓発活動を実施した。 ・生徒個別面談、学校生活アンケートを実施し生徒の状況を把握した。 ・通年いつでも連絡できる学校生活アンケートを実施。いつでも報告できるようにQRコードの載ったポスターを相談しやすいトイレ等に設置。 ・毎月いじめ防止委員会を開催し、担任から状況を聞き情報共有した。（4月から12月） ・いじめ解消率100%になっているが、R5の４件からR6の８件と増加。	
進路指導	進路希望の実現に不可欠な基礎学力の向上、また自らの思いや考えを伝える表現力、コミュニケーション能力の育成に努める。 （1）キャリア教育の推進により、保護者との連携を保ち生徒の主体的意志に基づいた進路希望の実現を目指す。 （2）校内において科や担任団など関係分掌との連携を円滑にし、キャリア教育を効果的に進めることで、成果を生徒に提供する。 【活動指標】 （ア）諸行事を適切に実施し、進路意識の啓発や有益な情報提供を進める。 ・インターンシップ／在卒懇談会／企業訪問 （イ）スタディサプリの活用により、学習習慣を持続させ基礎学力の定着を目指す。 【成果指標】 （ア）求人企業数・求人数の増加 （イ）卒業前の意識調査における高い満足度	【活動指標】 （ア）諸活動 ・インターンシップ　受入企業15社（±0）参加者34名（-1） ・在卒懇談会 参加企業15社（-3）大学1校（-1） ・企業訪問 54社（+5）を訪問 （イ）スタディサプリ ・担任団や他分掌と連携を密に「学校全体の指導」として実施した。 ・到達度テストにおいて、上位層の生徒が増加した。 例 ３年数学　：正解率65%以上の生徒68.5%（+26.1） ２年数学　：正解率65%以上の生徒60.9%（+20.3） ３年英語　：正解率65%以上の生徒57.1%（+16.6） 【成果指標】 （ア）若年層労働力を求める流れの高まりにより、求人数が大きく増加した。 求人数 県内　451社（+55） 　　874名（+176） 県外　396社（+185） 　　747名（+356） 合計　847社（+240） 　　1621名（+532） 　　求人倍率　14.22倍（+4.23） 【就職】 一次　合格者103　不合格者６ 合格率94%（+2.0%） 二次　受験者11 　（公務員４　一次不受験１） 【進学】 合格31（-10）不合格 1（-4） （合格率97%） 【公務員】合格者４ （陸上自衛隊２、警察１、市役所１） 不合格者4（警察・消防） （イ）進路満足度調査 「進路結果に満足」80%（+3）「まあ満足」19.2%（-1.8）	

改善課題
生徒会が活発に活動し、行内行事や伊勢警察署との連携、校則についての対話等、生徒主体の学校活動が増えおり、自主的に活動できる生徒が増えてきている。また、高校生工務店の活動にも幅広く取り組み、課題研究発表会を実施することができた。これらのことは、企業に求められる生活習慣や社会人として求められる能力であり、は、時代の変化に応じて適合させながら、機会の創出と生徒の能力育成に努めたい。加えて、DXハイスクールの指定を受けたことから、各科の専門知識・能力にDXの手法を加えて「新しい価値」のあるものづくりができるように取り組みます。 進路指導では、求人数では売り手市場であるが、産業人として必要な基礎・基本の学力および専門的な能力の定着をすすめていく。 昨年度以前に、関係者評価委員から指摘を受けていた、国際性の充実については、台南市の歴史的な建築物やその保全について、國立成功大學附属博物館からに指導を受けるとともに、國立台南第一高級中學と連携する取組を令和7年度から実施できるように進めている。

【別表】
標記:目標／受験者数／結果

資格取得　合格者数の目標値	資格、検定	機械科	電気科	建築科
	危険物乙種4類	40人／24人／ 5人		
	ガス溶接技能講習	78人／78人／77人		
	基礎製図検定	50人／78人／41人		
	機械製図検定	50人／71人／36人		
	技能検定(機械保全)3級	5人／ 0人／ 0人		
	技能検定(機械検査)3級	5人／ 0人／ 0人		
	小規模ボイラー講習	75人／27人／25人		
	電気工事士2種		40人／38人／28人	
	電気工事士1種		10人／4人／4人	
	電気主任技術者3種		1人／3人／0人	
	第二級陸上特殊無線技士		10人／7人／5人	
	第二級海上特殊無線技士		10人／3人／3人	
	技能検定(シーケンス制御)3級		10人／8人／5人	
	技能検定(電子機器組立て)3級		10人／10人／10人	
	福祉住環境ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ3級			5人／ 3人／ 0人
	2級建築施工管理技術検定試験			10人／24人／19人
	カラーコーディネータ3級			10人／42人／14人
	建築CAD検定4級			35人／38人／38人
	建築CAD検定3級			35人／35人／28人
	建設業経理事務士4級			20人／25人／25人
	技能検定(建築大工)3級			5人／ 5人／ 5人
	レタリング検定3、4級			35人／33人／23人

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	(1) 教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努めます。 【活動指標】 ・ 定時退校日を月1日実施 ・ 部活動休養日を週1回設定 ・ 放課後の会議の時間 60 分以内 【成果指標】(( )内は令和5年度の実績) ・ 上限時間月45時間超の延べ人数 0 人 (83 人) ・ 上限時間年 360 時間超の延べ人数 0 人 (16 人)・ 時間外労働を月 2 時間削減(19.1 時間/月) ・ 定時退校できなかった教職員数延べ 45 人以内 (23 人) ・ 予定通り休養日を設定した部活動の割合 100% (89%) ・ 60 分以内に終了した放課後の会議の割合 100% (95%) ・休暇取得を年 0.5 日増加(17.4 日/年) (2) 体罰や不適切な指導のない状態を守り続け、生徒がより安心、安全に過ごせる学校を目指します。 【活動指標】 ・コンプライアンス研修を年 2 回実施 ・ミニコンプライアンス研修を月 1 回実施 【成果指標】 職員一人ひとりのコンプライアンス意識が高まっている。 (3) ICT 教材を活用した授業研究等を通じて、各教科の ICT 教育のスキルアップを目指します。 【活動指標】 ・ICT 研修を年2回実施 【成果指標】 各教科における ICT 教材を活用した授業の実施と、ICT 教材を活用した授業改善を目指します。	(1) ・定時退校日、部活動休養日、放課後の会議時間の設定を活動指標通り とした。 ・月45時間超 66人(2 月末) ・年 360 時間超17 人(2 月末) ・時間外労働 月19.9h(2 月末) ・定時退校できなかった職員は、12人(12月末)。 ・休養日を設定した部活動は、89%(12月末)。 ・60 分以内に終了した放課後の会議について、100%(職員会議) ・休暇取得は、学校閉校日を設定して取得率増加に繋げた。 (2) ・学校信頼向上委員会を毎月実施するとともに、全職員生徒にコンプライアンス研修を2回(不適切発言2回)行った。ポータルの共有記事や新聞を活用した不祥事の情報共有を図り、職員のコンプライアンス意識を高めた。 ・ミニコンプライアンス研修を20回開催した(2月末) ・現在は、多くの授業でICT機器を活用したものとなっている (3) ・GIGAサポーターが来校する際に個別に研修を実施し、授業・校務改善を進めた(6回) ・各科で次年度から始まった観点別評価のマネジメント活動を行っている。 ・各教科で継続して ICT 活用指導計画の改善を図った。	
地域連携	南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めます。 (1)地域の自治体、企業や幼保小中学校との連携を強化し学校の情報発信力の強化を図ります。 【活動指標】 (ｱ)地元商店等のオリジナルグッズの開発 (ｲ) 小学校への出前授業の実施 (ｳ) 工業高校生フェアの開催準備 (ｴ)「ものづくりの小径」の整備 (ｵ) 報道機関への資料提供やSNS等による積極的な情報提供 【成果指標】 地域関係者との連携強化が進んでいる。	(1) (ア) ○度会町と連携 保育所クラスプレート製作・設置 ・度会町立中之郷保育所(進行中) ○伊勢市と連携 ・伊勢市高校生議会(8/7) ・市政施行20周年記念ロゴマーク作成() ・伊勢市駅前まちづくり(進行中) ○教材制作 度会特別支援学校 教材制作(5/20) 盲学校 新宿舎模型作成(3/5) ○伊勢志摩地域と連携	

	（2）地元企業との連携強化に向けて、双方向からの情報発信・相互理解を深めるための行事を実施します。 【活動指標】地元企業の高校内企業説明会の実施【成果指標】 企業、生徒双方の満足度90%以上（満足度アンケートより）	・ふたみ農園野菜プレート制作 ・伊勢警察署と連携して啓発活動等実施 7/10 夏の交通安全県民運動 〇三重県警と連携 ・11/23 ハートわん（AR付）贈呈 〇東北大学大学院環境科学研究科との連携 ＜しまのワークショップ＞ 志摩スペイン村ピクニック広場にラボを建てるプロジェクト 第1回 7/20 9人参加 第2回 9/21 6人参加 第3回 10/19 3人参加 第4回 11/16 3人参加 第5回 12/21 8人参加 〇伊勢税務署 案内看板の製作 〇R4年度から引き続き、明野高校、みよしやと連携して吟醸酒「明野さくもつ」の化粧木箱製作 （イ） 〇伊勢工業高校小学生講座 ・4/27 いじめ防止啓発活動3科ワークショップ ・6/2 フレンテフェスタ スマホで3D ホログラムを作ろう！ ・1/7 「伊工にいこう！in 玉城」3科ワークショップ 62人参加 〇1/23 神宮五十鈴川幼稚園「木工遊び」 （ウ） 〇工業高校生フェア（8/24） 機械科 レゴプログラム体験 〇産業教育フェア 機械科 コマをつくろう （エ） 〇ものづくりの小径 整備進行中。 （オ） 〇展示 ・鳥羽市立海の博物館「浜の集落」展示（11/2から12/6まで） 〇新聞掲載確認件数28件（2月末）18 件 〇公式インスタグラム ・全投稿265件（令和6年度:67件、令和5年度:105件、令和4年度:93件）、フォロワー991（令和5年度:707 令和4年度:411） 〇中学校説明会 7/2 松阪庁舎 30人 7/3 伊勢庁舎 72人 11/20 伊勢庁舎 58 人 〇中学校教職員説明会 8/21 19 人 課題研究等発表会 2/14 44 人 （2） 〇いじめ啓発活動（宇治山田駅） ・4/18:FC ISE－SHIMAと連携 ・11/9:FC ISE－SHIMA、明治	

		安田生命と連携 〇1年生、2年生を対象とした企業説明会を実施した。 〇地域とかかわった連携の満足度は 相手先 100% 生徒　 98%であった。	

改善課題
令和7年度入学選抜は、令和6年度には南勢地域で4クラス減少し、本校も希望者が大きく定員を下回ったこともあり、伊勢工業高等学校を地域に理解していただく取組の結果、令和5年度なみに希望者が戻った。地域の中学生が少なる中、引き続き、伊勢工業高等学校の魅力を発信していきたい。 校内では令和6年度から文部科学省指定のDXハイスクール(高等学校DX加速化推進事業)の指定を受け、各科で取り組んでいる専門教育にDXの視点を設けて、施設を整備するとともに学習内容も改良している(令和8年度完成予定)。引き続き、社会で必要とされる DX 人材に必要な資質・能力の育成を取り入れていきたい。 国際性では、令和7年度に台南市の國立成功大學の指導を受け、國立臺南第一高級中學と連携する予定である。成功大學には内容の精選・要望を取りまとめ、臺南第一高級中學には双方に実りのあるシラバスの共有を進めている。令和7年度7月までに概略をとりまとめたい。 勤務時間等については、業務の精選など図り、引き続き、勤務時間短縮を図っていきたい。 地域貢献活動は、昨年度同様取組むことができ、メディアでも多く取り上げられた。DX ハイスクール指定をうけていることもあり、DX を使った高校生工務店(高校生工務店 DX)を展開していきたい。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・令和6年度に新しく取り組まれていることが多く活気を感じる。 ・保護者説明会や中学校教職員体験講座等、伊勢工業高校進学志望者増加に効果を出している。 ・DXハイスクールは各科の目指す姿がはっきりしており、工業高等学校ならではのDXを目指してほしい。 ・海外の研修旅行は、これからの時代必要になる体験であるので、是非成功させてほしい。 ・新しい取組が多いが、地域に周知されていないので、SNSのフォロワーの増加やHPの活用をしてほしい。

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・引き続き、きめ細やかな教育活動をとおして、基本的生活習慣を身につけ社会常識のある明るく素直な生徒(ひとづくり)、産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり)、自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒を育成する。 ・育みたい生徒像を育成するために、南勢地域全体に求められる「ものづくり」(探究的な学習)に参加し、不易な「ものづくり」の資質・能力を育成するとともに、生徒が主体的に新しい資質・能力を学ぶ機会を設け、地域と共有できる場を設定する。 ・伊勢から地域の次の「ものづくり」担う人材をグローバルな視点で育むため、昨年度策定した工業高校ならではの「国際性」を育める取組を実施する。
学校運営についての改善策	教職員の働き方改革は、引き続き啓発をとおして、業務改善に努める。 教職員のコンプライアンス意識や、人権感覚を高めるため、職員会議、研修等に取り組み、継続的に意識を深める。